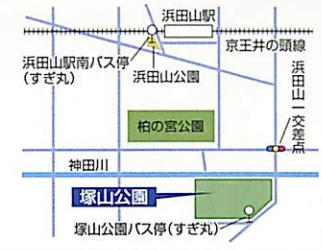


みどりに関する相談は
塚山公園 みどりの相談所
☎03-3302-9387
杉並区下高井戸5-23-12
毎週日曜日(第5日曜日を除く)
午前9時30分～正午、午後1時～4時30分



ハボタン

アブラナ科アブラナ属
ヨーロッパ原産 夏まき1年草



種まきから、楽しみませんか?

江戸時代、オランダから食用で導入されたハボタンは、キャベツの仲間であるケールを日本で鑑賞用に改良しました。寒さに当たると葉の中心から紅、紫、白に着色し、外側のグリーンリーフとのコントラストが映える、冬の花壇を彩るカラーリーフです。

系統

丸葉で耐寒性の東京丸葉系、葉縁が細く縮れる名古屋縮緬系、やや緩い縮みの大阪半縮緬系、葉が深い切れ込みの京都珊瑚葉系の4グループあります。

性質

秋の短日、低温により心葉が色づきます。耐寒性ですが、寒気が厳しいと葉先が傷みます。

楽しみ方

鉢や花壇植えにし、葉の形、色を楽しみます。最近は茎の長い品種もありコンテナの寄せ植えにユニークな花材として使われています。成長は10月までなので、11月以後の定植は、株間を詰めて植えたほうが美しく仕上がります。花が咲き終わったら、花の部分を取り、茎から出た脇芽を育てると「踊り咲き」になります。

失敗しない管理のコツ

1 種まき

播種は7月下旬から8月下旬頃。高温期は立枯れ病が発生しやすいので、新しい市販の種まき用土を3.5号(10.5cm)の素焼き鉢に8分目入れ、表面を平らにする。大袋でないタネ一袋分をまんべんなくばら播き、約3mm土を被せる。たっぷり灌水をし、支柱などで滴をつけてまく、風通しのよい日陰の涼しい場所におく。水を切らさぬように注意して管理をする。2日目位で発芽が出揃ったら、日当たりの良い場所に移し徒長を防ぐ。種まき箱を使用する場合、5cm間隔に溝を作り、条蒔きにし3mm土を被せる。発芽するまで乾かさぬようにする。



2 育苗

成長が早く、発芽後10日前後で葉が触れ合うようになり徒長しやすくなる。葉と葉が触れ合ったら間引く。本葉が2~3枚出たら3号ポットにポット上げをする。徒長を防ぐため、やや萎れかけたら灌水をする。週に一度、水やりを兼ねて規定より薄めの水溶性肥料(2000~4000倍)を与える。※ポット、鉢のサイズは1号が約3cm

3 定植

ポット上げた苗は本葉が6~8枚出たら鉢又は花壇に定植をする。鉢は、小鉢作り(3~4号鉢)、大鉢作り(5~6号鉢)、花壇やプランターは20~25cm間隔に植えると良い。鉢上げ用土は市販の培養土を使う。花壇は腐葉土を1㎡あたり10ℓ(バケツ2杯)、堆肥5ℓ(バケツ1杯)、苦土石灰50g(一握り)を混ぜよく耕す。

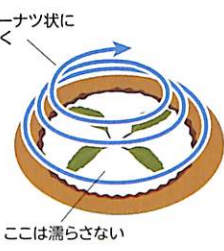
定植10日前後で、大粒緩効性化成肥料を小鉢は2~3粒、大鉢は5~6粒与える。花壇、プランターは一株に茶さじ一杯施す。以後、追肥はしない。

4 置き場所

置き場所は日中よく日が当たり、夜間寒く、霜があたらない軒下などが良い。高温の所に置くと葉緑素の分解が進まず綺麗に発色しない。

5 水やり

鉢植えは、土の表面が乾いたら、たっぷり与える。庭植えは、株の植付け時にたっぷり与え(水極め)、その後は必要ない。



6 肥料

育苗中は水溶性肥料を9月末まで月に2回程度施す。N-P-K=8-8-8の等量化成肥料又は水溶性肥料を9月中旬まで施す。

※11月以降に施すと葉の色がくすむ場合がある。

7 病害虫

アオムシ、アブラムシ、ヨトウムシなど見つけしだい取り除く。

項目	月	1	6	7	8	9	10	11	12
播種									
ポット上げ 定植				本葉2、3枚でポット上げ			本葉6~8枚で定植		
追肥						薄めた水溶性肥料を月に1~2回		定植後緩効性化成肥料を1回	
水やり 鉢 花壇							やりすぎないように、萎れかけたら与える		
								定植時に水極めの灌水は必ずやる。降雨がなく乾燥する以外は不要	

みどりとひと



樹木のふしぎ/ケヤキ
みどりに探訪/浴風会
みどりの窓/馬橋えんがわ公園
みどりのイベント2023開催
大田黒公園「新緑ライトアップ」
緑の歳時記/ヤマブキ
荻外荘復原・整備プロジェクト
園芸ワンポイント/ハボタン

樹木のふしぎ

ケヤキ (ニレ科ケヤキ属)

ケヤキの木は、杉並区ではサクラと並んで多い樹種です。ケヤキは空へ向かって扇型に広がる端正な姿の樹木で、樹高20~30mになる落葉高木です。夏には涼やかな緑陰を提供し、秋になれば葉を落とし、燦爛と陽光の恵みをもたらします。その枯葉は良き堆肥となり、これまでも豊かな農村社会を育んできた樹木でもあります。

●どんな木ですか

葉は互生で、長さ3~7cm、幅1~2.5cm、葉身は卵形あるいは卵状披針形で、先は鋭尖頭。質はやや薄く、縁には鋭い鋸歯があります。花は4~5月、果実は径0.5cmで、10月頃に成熟します。樹皮は、灰褐色で、一部鱗片状で、一目でケヤキとわかります。漢字で書くと、「櫟」で「木へんに拳」で、その材質は非常に硬く強靱という特徴があり、餅搗きの臼などにも使われていました。

●探してみよう

ケヤキのある風景は、阿佐谷の中杉通りの街路樹、荻窪八幡神社の参道のケヤキ並木、浴風会の長寿木、そして公園や屋敷林の貴重木等として随所にあり、町の景観を演出しています。是非、みなさん、町に出て公園や神社仏閣などでケヤキを見つけてみてください。



妙正寺公園のケヤキ

中杉通り

編集後記

「みどりとひと」はみどりのボランティアと協働で編集しています。

涼やかな 風が吹き抜ける ケヤキかな(石)
初めて訪れた浴風会病院 緑深い素晴らしい自然環境にただ驚き、ここで静養出来る人達は幸せと思いました。(原)
以前飼っていた我が家の犬は、ケヤキの若葉が大好きで、小さな木を見つけるたびに夢中でムシャムシャ・・・何故ケヤキを?と今まで不思議です。(松)
街のみどりがまぶしいほどです。目にも心にもやさしみどりで。(山)
くあじさいをかき分け始発電車かな 石英) 井の頭線は紫陽花の花の中から顔を出します。杉並に来て6年、花と緑に季節の移ろいを実感しています。(佐)
威厳と歴史を感じさせる本館と長い歴史の鬱蒼とした樹木にしばし都会の喧騒を忘る(小)
広い浴風会 疲れをいやす散策にどうぞ(水)



みどり探訪

浴風会

杉並区高井戸西1-12-1



交通アクセスはこちら

高井戸西にある東京ドーム1.3倍の敷地
総合老人福祉施設、浴風会を訪れてみましょう。



正門を入ると真ん前に本館
左右に落葉樹イギバ(飯桐)の大木がそびえています。
秋にはぶどう房状の赤く美しい実がなります。



長寿木の札を付けられたケヤキ、タイサンボク、
ヒマラヤスギ、見上げるような大木が10本以上あります。
区の貴重木であったクヌギの老木は台風で倒壊。



ベニシダレモミジ いかにも長い年月、
風雪に耐えた逞しい、珍しい姿をしています。
その他、オリーブをはじめ、アカマツ、イロハモミジ、トネリコ、
ハナミズキ、サクラ、ツツジ、フジ、サルスベリ、
よく知られている草花も数多くあります。探してみてください。



歩き疲れたら、
ベンチがあちらこちらにあります。
くつろぎのひとときをどうぞ!

表面より

荻外荘復原・整備プロジェクトのこと



近衛文麿への譲渡

その後、荻外荘は、昭和12(1937)年に、入澤達吉から、戦前に内閣総理大臣を3度務めた政治家 近衛文麿に譲渡されます。入澤達吉は、近衛文麿の健康の相談相手でした。内閣総理大臣就任に伴う訪問客の多さから逃れるため、東京郊外に邸宅を求めていた近衛は、入澤に依頼し「楓荻荘」を購入。近衛は、「心身の休養」の場を期待して荻窪に移り、住み始めたのですが、この家は、近衛家の生活の場であるだけでなく、政治会談の場ともなっており、日中戦争の泥沼化から日米開戦、そして、近衛が書齋で亡くなるまで、幾度となく政治家や軍人などが訪れ、首相官邸に準ずる政治空間としての役割を果たしました。このように戦前の政治の転換点となる重要な会議が数多く行われた「荻外荘」は、日本の政治史上重要な場所であるとして、平成28(2016)年3月、国の史跡に指定されました。

「荻外荘復原・整備プロジェクト」

昭和20(1945)年12月、近衛が「荻外荘」の書齋で自決した後、「荻外荘」には近衛文麿のご遺族がお住まいになっていましたが、平成24(2012)年、次男の通隆氏が逝去すると、地元10町会・自治会長の連名で「荻外荘」の保存を求める要望書が提出されました。区はこれを受けて、「荻外荘」の土地と建物を平成26(2014)年に取得。現在、令和6(2024)年12月の区立公園としての一般公開に向けて、「荻外荘」を近衛らが重要な会談を行い政治の表舞台となった時代の姿にようみがえらせる「荻外荘復原・整備プロジェクト」を進めています。杉並区は、日本全国の幅広い方々からご寄附を募り、このプロジェクトへのご理解とご賛同を得ながら行っていくと考えています。



画像は完成イメージです



日本を代表する建築家 伊東忠太設計による、
現存する数少ない邸宅建築でもある「荻外荘」。
みなさまからのご支援が「荻外荘復原・整備プロジェクト」の大きな力になります!



ふるさとチョイス

「荻外荘」は復原整備工事のため、現在は公開していません。区立公園としての公開は、令和6(2024)年12月の予定です。どうぞご期待ください!



荻外荘復原・整備プロジェクト

浴風会 ～地域での存在～

関東大震災等に見舞われた高齢者の援護のため、大正14(1925)年1月に財団法人として設立。みどり探訪でも触れているとおり、広大な敷地には多くの貴重な樹木、樹林があります。現在の老人福祉施設としての活動も約60年、2年後には創立100周年を迎えますが、東大安田講堂を手掛けた内田祥三等による本館と礼拝堂は当初からの歴史ある建物で、デザインが特徴的。

園内は自由に入出りでき、近くの保育園や幼稚園の子どもたちが散歩にきたり、地元の小学生が管理する花壇やNPOと共同で育てる野菜畑があり、地域に開かれた場と実感できます。近くへいらした際は立ち寄ってみてください。心地良い癒しの空間が広がっています。



荻外荘復原・整備プロジェクトのこと

「荻外荘」の誕生

「荻外荘(てきがいそう)」は、昭和2(1927)年に建築家 伊東忠太の設計により、医師で大正天皇の侍医頭(じいのかみ)も務めた入澤達吉の別邸として創建されました。庭にはカエデの木が多く、入澤達吉はこの別邸を「楓荻荘(ふうてきそう)」と呼んでいました。

設計を担当した伊東忠太は、築地本願寺などを手がけた、日本を代表する建築家です。入澤達吉と伊東忠太は、帝大の教授仲間というだけではなく、入澤は伊東の義兄にあたり、趣味も共通するところが多かったそうです。

入澤には、静養と、客人をもてなすための邸宅を持ちたい、という意向があり、これが、きれいな空気と、松林や富士山をも望める美しい眺めに恵まれていた荻窪に居を構える動機となったようです。伊東忠太が荻外荘の設計を行ったのは、彼が50代の終わりから60代の初めでした。「義兄からの注文を受け、思ふ通りの家を目指して自ら設計図を引き、木挽の選定も行った伊東は、邸宅の内外装にも自らの意向を大いに反映させた」との内容が記された資料もあるそうです。

＜裏面に続く＞
創建時の荻外荘(個人提供)

みどりの窓

information

新しい公園を紹介します

馬橋えんがわ公園

住所:阿佐谷南1丁目27番20号
面積:361.81㎡



阿佐谷南・高円寺南地区防災まちづくりとして、多世代が憩い集える「まちの縁側」をコンセプトに整備しました。また、この地域の旧村名が馬橋であることから、馬橋えんがわ公園と命名されました。

みどりのイベント2023開催

身近にあるみどりに親しみ、みどりと遊び、みどりについて考えるイベント。今年も柏の宮公園で5月28日(日)開催、2000名を超える方で賑わいました。さまざまな体験型イベントに参加し、子どもも大人も思い思いに楽しむ様子が見られました。



輪切りに絵を描こう



竹馬作り



ツリークライミングは大人も見上げる高さ



大田黒公園「新緑ライトアップ」

4月7日(金)～16日(日)

大好評の紅葉ライトアップに続き、春の新緑ライトアップを夜間のイベントとして行い、みずみずしいモミジやサトザクラを中心にライトアップされた樹々が織り成す幻想的な紅葉をお楽しみいただきました。



緑の歳時記

Kさんのちょっと好奇心

ヤマブキ(山吹)

バラ科 落葉低木

「七重八重花は咲けども山吹の実の(糞) 一つだになきぞ悲しき」は太田道灌の逸話で有名です。こちらはヤエヤマブキ(八重山吹)で八重咲きの園芸品種です。雄しべが弁化し、雌しべも退化しているため果実はできません。この歌が先入観になってヤマブキは実がつかないものと思っっている方が案外多いです。さて、本題のヤマブキは山野に生え、公園樹や庭木として植えられ、植え込みにも使われます。鮮やかで濃い黄色の花は「山吹色」の語源にもなっています。4～5月に見られるこの花は、花弁は5枚。果実は米粒様の約4ミリの長さで5個つきますが、1～4個が成熟します。秋になって公園散歩の折にはぜひ探してみたいかががでしょう。

